

< 高付加価値型農業に取り組む事例 >

優良品種の導入等による高品質安定生産

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県西宇和郡伊方町 川永田			
協定面積 71 ha	田	畑(100%) 温州、清見等	草地	採草放牧地
交付金額 820 万円	個人配分			50 %
	共同取組活動 (50 %)	役員手当、会議費		2 %
		農地法面、水路、農道等の補修・改良費		15 %
		道・水路管理費		20 %
		鳥獣被害防止対策費		3 %
	その他、視察研修費等		10 %	
協定参加者	農業者 71人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当地区は、急傾斜の段畑で、温州みかん、清見等の中晩柑を栽培する柑橘専作地帯であるが、高齢化・過疎化が急速に進み労働力不足が深刻な問題となっていた。

このような中で、経営を持続安定させ、農用地の保全に取り組むため、平成12年度（1期対策）より本制度に取り組んでおり、平成17年度（2期対策）からは体制整備を選択して、積極的に制度に取り組んできた。

3. 取組の内容

協定参加者全員が果樹専作農家であるが、担い手不足が進み、労働力低下が問題となっていた。前期対策においては、集落共同でマルチの敷設（7.6ha 8.8ha）を行うことにより柑橘の品質向上に努めるとともに、認定農業者2名の増加により、担い手の育成が図られた。

今期対策においても本制度に取り組み、体制整備活動として柑橘の優良品種である甘平等を1ha導入し、収益率を向上させるとともに、収穫時期の分散により労力の軽減を図ることで、高品質安定生産に努めることにしている。

また、機械・農作業の共同化によって労力を軽減し、経営の安定と農用地の保全に努める。



【総会の開催】

[集落の将来像]

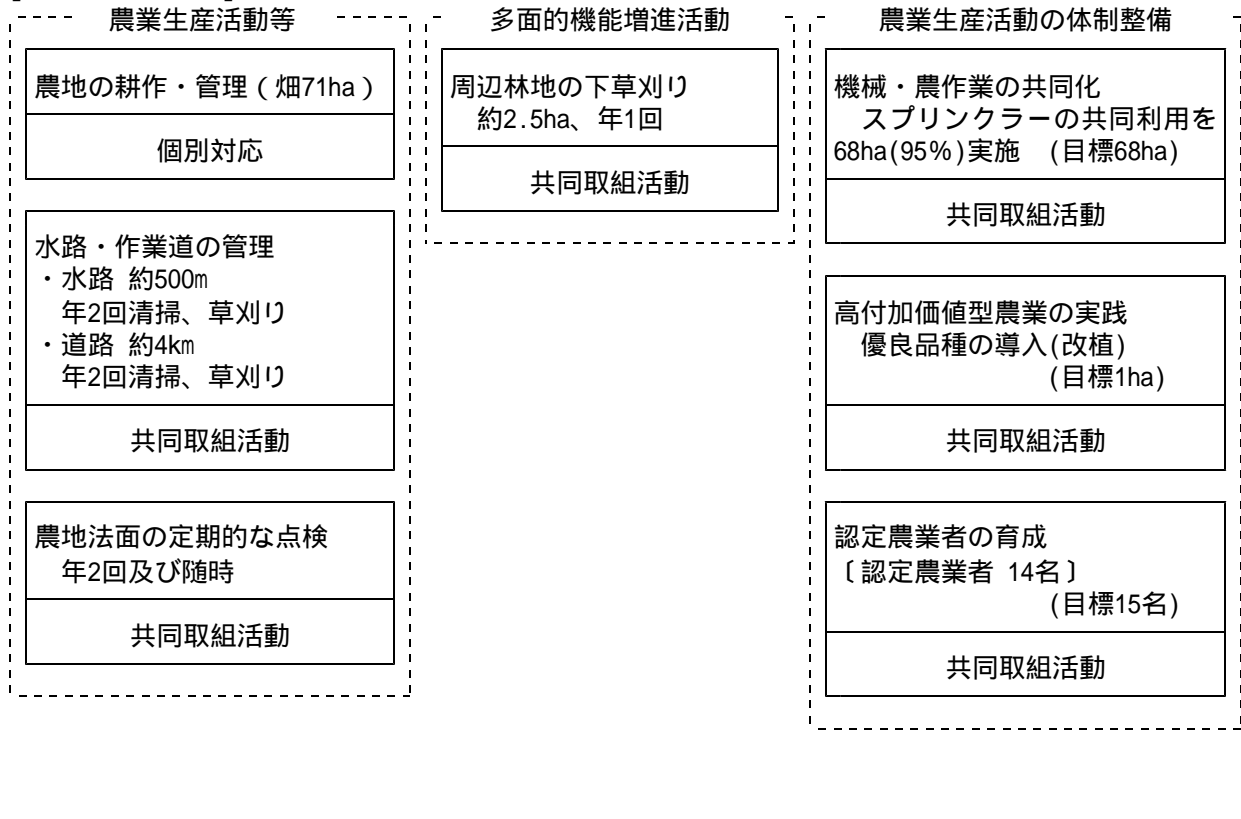
共選を単位とした産地ぐるみでの産地育成に取り組み、新品種やマルチの導入による高品質化を図り、ブランド力のある柑橘生産に進めていく。



[将来像を実現するための活動目標]

次世代品種の導入。
認定農業者を育成するとともに、農用地の集積を図る。

[活 動 内 容]



集落外との連携

有害鳥獣連絡会と連携を図り、イノシシの捕獲等を行う。

4 . 今後の課題等

優良品種への改植を望む農家は多いが、改植を行うと3～5年は収穫がなく収入面等考慮した結果、断念する農家が多いのではないかと懸念される。

[第2期対策の主な成果]

高付加価値型農業の実践

目標達成(マルチ栽培(タイベック敷設)の実施) (H17: 76,700㎡、H21: 88,467㎡)

認定農業者の育成

目標達成(H17: 12名、H21: 14名)